

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成20年10月2日(2008.10.2)

【公表番号】特表2008-512545(P2008-512545A)

【公表日】平成20年4月24日(2008.4.24)

【年通号数】公開・登録公報2008-016

【出願番号】特願2007-531172(P2007-531172)

【国際特許分類】

C 0 8 L 27/12 (2006.01)

C 0 8 K 5/14 (2006.01)

C 0 8 K 5/053 (2006.01)

C 0 8 K 5/00 (2006.01)

C 0 8 F 14/18 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 L 27/12

C 0 8 K 5/14

C 0 8 K 5/053

C 0 8 K 5/00

C 0 8 F 14/18

【手続補正書】

【提出日】平成20年8月8日(2008.8.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

非晶質フルオロポリマーを含有する組成物であって、前記非晶質フルオロポリマーが、
 (i) 前記非晶質フルオロポリマー中の反復単位の総量を基準にして 0 . 1 モル % と 0 . 5 モル % との間の量で前記非晶質フルオロポリマー中に含有されている 1 種以上の硬化部位成分を有するか、または

(i i) 脱ヒドロフッ素化されることができ、前記非晶質フルオロポリマーが、(a) 1 種以上の気体フッ素化モノマーと、(b) モノマーの全重量を基準にして、オレフィン二重結合の炭素に結合した臭素原子またはヨウ素原子を有する 1 種以上のオレフィン 0 . 5 重量 % 以下との重合から誘導可能であるか、または

(i i i) (i) と (i i) とのある組み合わせを有する、組成物。

【請求項 2】

フルオロエラストマーを製造するための硬化性組成物であって、前記組成物が、請求項 1 に記載の非晶質フルオロポリマーと、前記非晶質フルオロポリマーを硬化するための 1 種以上の成分を含有する硬化組成物とを含有する硬化性組成物。

【請求項 3】

請求項 2 に記載の硬化性組成物を射出成形または押出し成形する工程、および前記硬化性組成物を硬化させる工程を含む、エラストマー物品を製造する方法。

【請求項 4】

請求項 1 に記載の非晶質フルオロポリマーを製造する方法であって、

(a) 1 種以上の気体フッ素化モノマーと、(b) モノマーの全重量を基準にして、オレフィン二重結合の炭素に結合した臭素原子またはヨウ素原子を有する 1 種以上のオレフ

イン 0.5 重量% 以下とを重合する工程、および；

(i) 硬化部位を含む 1 種以上の成分の存在下で、1 種以上の気体フッ素化モノマーを重合する工程であって、前記成分の総量は、前記非晶質フルオロポリマー中の硬化部位成分を 0.1 モル% と 0.5 モル% の間で導入するのに十分である、工程によってか、または (i i) 脱ヒドロフッ素化することができる非晶質フルオロポリマーを提供するために、前記の 1 種以上の気体フッ素化モノマーとして少なくとも 1 種類の部分的にフッ素化された気体モノマーを選択する工程、もしくは前記気体フッ素化モノマーと、1 種以上の非フッ素化モノマーあるいは部分的にフッ素化された非気体モノマーとを共重合する工程によって、フルオロポリマーに硬化能力を提供する工程を含む、方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 7】

(発明の詳細な説明)

本発明に従って、非晶質フルオロポリマーは、(a) 1 種以上の気体フッ素化モノマーと、(b) モノマーの全重量を基準にして、オレフィン二重結合の炭素に結合した臭素原子またはヨウ素原子を有する 1 種以上のオレフィン 0.5 重量% 以下との重合から誘導可能である。そのオレフィン、Br 原子および / または I 原子を含有することに加えて、フッ素化されていなくてもよく (すなわち、フッ素原子を含有しない) 、部分的にフッ素化されていてもよく (すなわち、水素原子の一部 (しかし全てではない) がフッ素原子で置換されている) 、あるいはオレフィン、I または Br で置換されている水素原子を除いては、すべての水素原子がフッ素原子で置換されている過フッ素化 (完全フッ素化 (perfluorinated)) 化合物であってもよい。